

## 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成26年11月18日（火）

午後1時30分～3時30分

【会場】静岡県立松崎高等学校

### 1 出席者

- ・ 発言者 松崎町、西伊豆町において様々な分野で活躍されている方  
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 105人

### 2 発言意見

	項 目	頁
発言者 1	石部棚田の保全活動について	2
2	花の会活動報告	4
3	賀茂地域、西伊豆地区の医療について	8
4	更生保護女性会、消費生活研究会の活動報告	11
5	西伊豆ふるさとおこし隊について	18
6	蔵ら活動報告	21
傍聴者 1	国道136号について	28
2	ヘルプカード・マークについて	29
3	道の駅再生について	31

<県知事挨拶>

松崎町並びに西伊豆町の皆様、こんにちは。本日は松崎町の町長さん、また西伊豆町の町長さんも御臨席いただきまして、誠に恐縮でございます。

この知事広聴というのは、広く聴くというふうになっておりますように、地域に出かけていって、皆様方の、特に地域で活躍をされている方々の御意見を拝聴いたしまして、そして特に緊急を要するものは、その場でなるべく早く決断をして、その場で決断できないものにつきましては、必ず後からお返事を差し上げて対応すると、こういうことでございます。今回も入れて36回やっております、本年度に入りましてからは6回目で、ようやくこちらの土地にやってくることができました。

この松崎高校は昨日も来ておりまして、昨日は松崎高校の生徒会の皆様と意見交換をいたしました。そして今日は西伊豆町の仁科小学校に参りまして、国語の授業、小学5年生の30人の子供たちの授業風景、大変にすばらしい授業でございましたが、それを参観してまいりました。すなわち私自身は昨日、今日と賀茂地域に滞在しているわけでございます。

今の知事室がどこにあるかという、実はこの松崎町に置いてございまして、昨日の知事室は下田の机が私の知事室の机になっていたと。ここは私の大好きなところなんですけれども、やはり静岡市から来ると遠ございますので、それで何も知事室で仕事をするのが知事の仕事ではないということで、静岡県全体が私の働く場所であるということで、泊まりがけでそこにとどまっているところが知事室だという考えでやっております、そういう試み、移動知事室も丸2年になろうとしております。

そういう移動知事室の一環でもございまして、今日は6人のこの松崎並びに西伊豆の代表の方々から意見をしっかり承りまして、皆様方充実した、3時半くらいまでよろしくお願いを申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

<発言者1>

こんにちは。松崎町地域おこし協力隊の発言者1と申します。東京からこの4月にこちらの松崎町に来ました。今、妻と石部地区に住んでおりまして、仕事としては石部棚田の保全活動に従事しております。

私、石部棚田で今保全活動をして4月から半年以上が経ちました。この石部棚田というのは思うに日本一生産効率の悪い田んぼだと感じました。その生産効率が悪い田んぼというのは、要するにお米を普通に作って、それを売っただけでは儲からないというか、儲け

ることができない、そういう田んぼだというふうに認識しました。棚田自体がどこの棚田も生産効率は悪いと思います。棚田だけではなくて、日本の小規模でやっている農家さんもほとんど儲かっているということはないと思います。

そういった日本一生産効率の悪い田んぼで、私は子供から大人まで、いろんなことを考えるきっかけになる場にしていきたいなど、そういうふうに考えています。幾つかいろんなことを言いましたけれども、今日は時間がないので2点ばかり。

まず1つが、日本の文化とか、伝統とか、技、技術といったものを継承する、そういったことを考える場にしたい。これはどういうことかと言いますと、私、いつもお世話になってます棚田保存会の方から聞くんですけども、棚田はなぜ美しいか。何で美しいかわかるか。理屈抜きに、すごく見て皆さんも美しいと思うと思うんですけども、その棚田が美しいのは、先人たちの思いを引き継いだ今手を加えている、そういったものがあるから、手が加わっているから美しく感じるんだと。理屈抜きに美しいと思っていたんですけども、そこには理屈があったと。そういった文化だとか、伝統だとか、そういったものを引き継いでいるから美しいと感じるんだなど、そういうふうに思いました。そういうものを考えるきっかけになる場にしていきたいなど。

もう1点が日本の食糧問題というか自助ですね。そういったものを子供から大人まで考える、そういう場にしていきたいと思っています。日本一効率が悪い棚田で、いろんな機械が入らない手仕事というのがあります。そういったものを通じて、今日本の自給率が40%を切っているといえます。39%と聞いています。そういった現状で、また農業に従事している方というのが、たった3%しかいないと聞いています。97%の人が農業に従事していないと。また、その農業をしている人も、実に4分の3が65歳以上だというふうにも聞いています。そういった今現状があります。

先日、棚田サミットに参加してきました、そこで基調講演の方がおっしゃっていたんですけども、棚田というか、農業というのは今、日本の年金制度が支えているんだという話がありました。要するに年金をもらっている方々が意地とプライドで支えているというような現状があると。そういったものを踏まえて、これはいろんな考え方があるので、そういう子供から大人まで選択肢の1つとして考えてもらいたいなどと思っています。

もうそんな生産性のない日本で農作物を育てるのはやめて、違う儲かることをやっていけばいいじゃないかというのも1つの考え方だと思いますし、自分たちが食べるものは自分たちが作るんだというのも1つの考え方、そういったいろいろな選択肢があると思うの

で、今いろんなことが何も考えないで、多分皆さん何も考えないというのはおかしいですけども、決まっていくようなそんな時代だと思うので、少しでもそういったことを考えるきっかけの場にしていきたいと思います。

考える場にしていきたいということなので、人を集めなければいけません。なので、私は今棚田オーナー制度というのがありますけれども、そういった都市農村交流、グリーンツーリズム、そういったものが言われていますけれども、私はその人を集めるというところを努力しまして、人を集めるところを頑張りたいと思います。それがひいては私の地域おこしという仕事につながって、松崎町に貢献できるのではないかなと思います。以上です。

#### < 発言者 2 >

松崎花の会の発言者 2 です。よろしく申し上げます。花の会では幾つかの活動をしていますが、花とロマンのまちづくりに関わるのではないかと思う活動を 2 つ話したいと思います。

1 つは街角花飾りについてです。きっかけは 10 年前の浜名湖花博のときの会場に、松崎のコーナーがありました。そこを担当したデザイナーの方が、そのとき松崎に来て、町のイメージに合うような寄せ植えの花飾りを提案してくれました。そのとき花の会はお手伝いをしたのですが、それが大変よかったです。それから私たちだけでいろいろ工夫しながら花飾りの活動を続けてきました。なまこ壁の町並みに合う和風の雰囲気の花を選んで、植木鉢の方も暗い物置に眠っている桶や樽などを集めて、そういった民具を使えば和風の感じになるのではないかなということで、その寄せ植えをしてきたのですが、長い間には、桶や籠は傷んでしまうので、青竹なども使いまして、和風の感じが崩れないような工夫をしてきました。先ほど紹介されましたが、ここに飾ってある花とか、入口のところに飾ってある花が、今年の一部です。

この花飾りというイベントは、今年で 9 回目を数えました。観光客の評判もよく、町の皆さんにも喜んでもらえるので、私たちも頑張っています。棚田サミットのときも、花の会として何かお手伝いすることはないかなということで、サミットの時期にあわせて花飾りで皆さんを迎えました。今では旅館、民宿の女将さん組合の方も一緒に寄せ植えをやっているので、宿の玄関やバスの停留所などに飾られています。

昨年からは、もっとこのことを広げていきたくて思いまして、寄せ植えの講習会を開いて

います。今年は60名の参加がありましたから、花の会の寄せ植えの花飾りとあわせて、たくさんのお花が各家の玄関や店先に風情ある豊かな鉢植えが皆様の目を楽しませたと思います。ある地区では会員の方が中心になって、野山の木や花を持ってきて寄せて寄せ植えに利用して、公民館や村の道を飾っています。自分たちで楽しんでやっていることが少しずつ広がって、住みよい町になればうれしいなと思っています。

それから花の会ではもう1つ、10年間続けている花の会の有志によるボランティア活動があります。それは道の駅花の三聖苑の植栽管理です。植栽管理というのは、花を植えたり、草を取ったりすることなんですけれども、植栽管理をずっと続けています。

今は人数も少なくなりましたので、担当しているところは県道沿いの花壇だけになりましたが、月に3回、5日と15日と25日、日にちだけを決めてあって、あとは都合のつく人が集まって、花植え、草取りをしています。

ですから10人集まる日もあれば、2人だけという日もありました。私1人だけという日もありましたけれども、それでも途切れることなく、月3回のボランティアが10年続いているということは自慢していいことではないかなと自負しています。最近は花の会の会員でない方も手伝ってくれる方が3、4人増えてきて、大変うれしく思っています。

三聖苑は町の観光目玉だと思いますが、草取りに月3回出入りしていると、10年前に比べれば大分荒れてきているのが目につきます。ほかの道の駅と違って、売店もほとんどないし、公園のような道の駅です。整備されている公園というのは、維持管理にとってもお金がかかると思います。こんな小さな町では負担の多い施設だと思います。

それでこの場が県への要望が言える場でしたら、1つお願いがあります。造ったときに補助金が出ていると思いますから、管理の補助金も出ないのではないのでしょうか。出していただけないのでしょうか。10年経ちますと、やはり補修していかなくやならないところも大分出てきて、多分大きなお金がかかるんじゃないかなというふうに思います。役場を差し置いて失礼かなと思いつつも、三聖苑を大事に思う私たちボランティアの仲間のお願いです。

花の会は活動を通して社会参加をし、町民の一人としてできることをこれからも続けていきたいと思いますが、高齢化の中、会員の人数がだんだん減ってくるというのが課題だと思っています。これを機会に花の会に入ってくれる人がいればいいなと思いつつも、私の話を終わります。

<県知事>

発言者1さん、発言者2さん、どうもありがとうございました。

発言者1さん、東京からですか、移ってきてくださいましてありがとうございます。発言者1さんにとって非常に幸運だったと思いますし、また松崎町にとっても幸運だったと思うわけですね。

棚田は、これはもう棚田百選だとか、今や日本の、あるいは世界の農業遺産だとか、世界文化遺産だとか、そうした対象になりまして、人類の宝物になっているんですね。そしてこの石部の棚田、その昔立派な棚田があったと、それが一度崩れたと、これをもう一度やり直そうということでお始めになりまして、先ほどの棚田サミットというのが松崎で開かれたわけでございますけれども、そうしたことがきっかけになって、この松崎高等学校の学生諸君も畦作りを皆手伝っているんですね。高校生で手伝っていなかった者は1人もいないと思います。そういう手伝いをして卒業していくということです。

そしてこの松崎町は、町長さんの御尽力によりまして、静岡県の美しく品格のある邑、それからまた日本で最も美しい村、この静岡県で唯一です、これが松崎町ですよ。その一番の核をつくっているのが棚田なんですね。ですからこれはもう自慢の棚田なんです。

能登半島にも千枚田というすごいのがありまして、そこに明かりをつけて、それが星空のもとに輝くというのがいいというので、それを見に行く人もいるぐらいで、ですから1つの芸術になっているんですね。人間の手を入れたものと、自然の持っているコンビネーションが誠に美しいということで、私は松崎、あるいは西伊豆全体の、あるいは伊豆半島全体の財産であるというふうに思っているところであります。

ですからここをこういう発言者1さんのような能力のある方が、いろいろな人を集めて、そしてここを見に来てくださる人を増やしていくということはとてもありがたくて、今奥様と御一緒にこちらにお住まいだそうでございますけれども、第二第三の発言者1さんのような方がこちらにお越しになるのを本当に楽しみにしております。

そういう外から来る方がやはり町を見ますから、町に花飾りがあるというのをなさってくださっているのが、発言者2さんほか花の会の皆様でございまして、そして10年前に浜松で花博をやりました。そしてその10周年ということで、今回80万人を目標にしてやったところ、実際は130万人もの人が来られて、そして皆うれしい悲鳴を上げたわけです。本当にたくさんの方が来られました。

どうしてかという、それは実は花それ自体の力によるんですね。浜松は10年前に花博

をなさった。そうすると水辺というのがあるので、花に合うんだということがわかって、そしてそこでいろんな花、緑、これを大事にする団体が立ち上がりました。

そして10年経っているうちに、例えば花博に行かれた人はモネの庭というのに行かれた人がいると思いますけれども、モネの庭というのはパリの郊外にありまして、そしてそのモネは日本の版画を見て、日本の美しさに魅了されて、自分で日本の庭をイメージして人工池を造りまして、太鼓橋を造って、ヨーロッパの、特にパリの橋というのはまっすぐです。こういう太鼓橋を造って、そして日本のイメージは池に睡蓮が浮かんでいることだと。それからまた藤の花が垂れていることだと、こういうのを版画で見て、そのイメージで造って、このモネのつくったジヴェルニーの庭というのを向こうから許可を賜って、そのまま同じようなものを浜松に造ったんですよ。

だけど、これはもともと日本の庭に憧れて造ったものなんですね。そうすると10年経つと、向こうは、パリというのは、北海道の一番北に稚内という突端のところがあります、それより北なんです。北緯50度くらいですよ。日本の一番の北端は、今もう雪が降っていますけれども、北緯45度です。それより北なんですね。こちらは北緯30数度でしょう。ですからもう十分に暖かいので、10年経つ内に花の数がもうものすごく増えたわけです。だからモネの庭という必要がなくなって、花の美しい華美の庭として出したら、それが余りに美しいから人が来るということになったんですね。たくさん花ができる。

そのたくさん花のできる場所がどこかという伊豆半島でしょう。こちらはもう2月、3月に大島桜が咲くと。「君知るやころは弥生」でしたかね、「君知るやころは弥生の松崎の大島桜の花の白さを」などと言うじゃないですか。もう河津では2月に桜が咲きますし、ですから年中様々なお花が彩っているわけです。

そのことに発言者2さんがお気づきになって、浜松で花博をやっているんだったら、私たちの町も花飾りをしましょうということで、こちらのなまこ、すなわち和風に合うこういう寄せ植えをなさって、今は講習会までされているということで、これは本当にありがたいことです。花飾りなんて、なんて美しい言葉でしょう。町が花で飾られているというのは花の町ですよ。

花の町を嫌いな人は世界中だれもいないですよ。どんな人が来られても、「あっ、きれい」と言うわけですから、最大のおもてなしですね。そのおもてなしをされている発言者2さんから、道の駅に対して手伝ってほしいと、それに対してノーと言えますか。こういうことです。

こちらに町長先生もいらっしゃいますので、道の駅、こんなところに要らないと、そういう意味のこともおっしゃっているのですが、どういうふうになれば一番花の会の方たちにとっても、また町の人にとっても、県と町にとってもいいかということと一緒に考えまして、10年間いろいろとそこで5日、15日、25日と世話をされてこられたということですので、そこをもっときれいにできるように、人がお越しになれるように一緒に工夫をしましょう。ひょっとすると道の駅を造ったときにも、そこがきっと人が集まるのにいいというふうにして造っているはずですので、まだ生かし方がいろいろとあるに違いないというふうに思います。

いろいろなところで松崎町の、あるいは西伊豆全体のイメージが上がってきております。ジオパークが来年世界ジオパークとして認定される可能性もありますから、そうなりますと世界中の人がお越しになるので、そういう道の駅のようなものがあつた方がいいかもしれないので、将来のことも考えながら、我々としてもできる限りのお手伝いをしたいと。どういう補助になるかはちょっとわかりませんが、お手伝いをするということでございます。差し当たって以上でございます。ありがとうございました。

#### < 発言者 3 >

皆様、こんにちは。先ほど御紹介をいただきました賀茂医師会の発言者3と申します。実は西伊豆で開業医をしております。そういったことで賀茂地域の医療並びに西伊豆地区の医療ということについて少しお話しさせていただきたいと思っております。

先ほど富士山をはじめ、この地域は世界で、あるいは日本で一番という形でものを申しますと、医療の世界では、この地域はダイビングスポットとしては日本で一番のスポットであります。年間150万人というダイバーが来ておりますが、また最も安全なダイビングスポットとして伊豆半島は注目されている地域でございます。潜水病という病気がありますが、それに関しましては高圧酸素治療というのが重要になりまして、下田から東海岸は東海大学の高圧酸素室、西海岸は静岡済生会病院の高圧酸素室、そこと提携をしているということで、日本で一番安全なダイビングスポットとして注目されていることを御承知願いたいと思っております。

またこの地域の医療ということに関しまして、皆様御存じだと思いますけれども、賀茂地域には1市5町で成り立っている賀茂医師会というのがございまして、その中に9つの病院がございます。ただし、そのうち一般診療を行う病院は4病院しかございません。西

海岸の西伊豆病院、下田メディカルセンター、伊豆今井浜病院、伊豆東部総合病院ですね、この4つの病院と、診療ができるのは57の診療所がございますが、一般診療所は45、その中で66名の医師が診療を担っているところでございます。

御存じのとおり、この地域非常に入り江に民家が集中しておりまして、そこに大体1軒の診療所が存在するような地域でございまして、その入り江の中で地域の医療が行われているところでございます。

そういった中、救急医療、災害医療、これからの在宅医療等について少しお話しさせていただきます。まず救急医療体制ですが、皆さん御存じのとおり、この地域は救急が非常に危惧する部分が多々あります。というのは西伊豆病院は非常に頑張ってやってくれているんですけれども、大きな外傷であるとか、あるいは心筋梗塞であるとか、頭蓋内の大きな治療を要する病院の施設としては、まだ医師不足であったりという面が多々あります。

そういった中でドクターヘリ、順天堂が持っていますドクターヘリの活用といたしましては、順天堂病院のドクターヘリの約半分はこの伊豆地域や賀茂地域からであります。そういった中で、このドクターヘリ体制ができたことによって、この地域の救急医療というのは非常に助かっている面もありますが、ただ夜間に関しましては、まだドクターヘリが飛んでないということで、皆さんはその辺に不安があるということがあるのではないかと思います。

夜間でありますと、救急車を使いますと、天城峠、あるいは船原峠を越えて順天堂までは1時間以上ですかね、1時間ぐらいの道のりでございますし、やはり救急車とドクターヘリの違いというのは、医者が乗っているか乗っていないかという問題になります。ドクターヘリには必ずドクターが搭乗、あるいは看護師さんも乗ってきておりますので、患者さんから医療関係者への落ちがほとんどない。救急車でありますと、ついていく場合もありますが、山道の場合は救命救急車がないという状況があります。そういった問題点がありますが、やはりドクターヘリは夜間の問題、あるいは道がもう少しよくなればというのが、救急医療体制にとって我々が望むところでありますし、その中で我々医師会員としては何をしていくべきかというのを今模索している最中でございます。

こういう救急医療という問題に関しましては、賀茂地域は非常に難しい地域でございまして、さきの東日本大震災で津波の恐ろしさというのは皆さん記憶にあるところでございますし、先日8月に静岡県の実地防災訓練がこの賀茂地域で行われました。やはり想定さ

れます三連動の地震に関しましては、やはり東海岸と南、西とは大きな差がございます。

そういった中、津波のことだけを考えますと、特に今日知事がいらしているこの西伊豆地域というのは、津波に対して医療に関して非常に弱い地域でございます。松崎町に3つの診療所、西伊豆にも3つの診療所と1つの病院がございますが、すべての医療機関がすべて水没します。

さきの総合訓練では前の洋ランセンターですね、あそこで訓練がありましたけれども、仮に発災してあそこにヘリコプターが降りたとしても、だれも医療関係者がそこまで行けないというのが現実でございます。我々医師会員の考えていることは、医療関係者がいかに生き残るか、まずそれを考えようというのが一番話し合っているところでございます。

自助共助公助といいますけれども、まず自助ということで、私、西伊豆町で、今日西伊豆町長がいらしていますけれども、そういった会議の中で、いかに逃げるか、逃げ道をどのようにつくるかというのが非常に大きな問題であるということを常々話しているところでございます。山に逃げればいいのではないかという話もありますけれども、私の診療所から山まで駆け足で5分くらいかかりますね。その間に津波が来てしまうという地域がほとんどでございますから、松崎町で話が出ている津波避難ビル、そういったビルというか、タワーをつくった方が、防潮堤をつくるよりはるかに安いんじゃないかという気がします。

そんなことを含めて災害に弱い地域であるということをお願いたいですし、自助という面に関しましては、皆さんがいかに助かるかという問題と、トリアージという言葉聞いたことがあると思います。トリアージというのは、健常者は後回しなんですね。ただこういった地域では、皆さん顔見知りの患者さんが多く来ますので、おれだよ、早く助けてくれということが多く予想されるんですけれども、そういう元気な人は後回しということをお啓蒙していかなければいけない。住民の方にトリアージというものはこういうものだよというのを啓蒙していかなければいけないということで、我々医師会では理事というものをしておりますので、各市町の皆さんがその理事をつかまえて災害医療に関してはいろんなことを話し合っただけならば幸いです。

これから在宅医療の問題になります。これから地域包括ケアセンターとかいろいろ話が出てきますが、在宅医療に関しましては、この地域では町ごとではなかなか難しい面があるかもしれません。そういった中、西海岸では西伊豆病院、南では下田メディカル、東では今井浜ですか、その病院を核とした地域医療、在宅医療の連携が構築できれば一番いいのではないかとこのように考えておりますので、これから西伊豆町、松崎町、それぞれ

にそういった話が出ると思うんですが、ぜひ西伊豆町と松崎町、手を取り合えばそういった連携もたやすくつくっていただければ幸いです。

最後に、これはこの場で知事に要望していいかわかりませんが、こういった地域でございますので、専門医療を担う医師が非常に少ない。例えば認知症という問題がクローズアップされていますが、この地域はMR I、CTが幾つかあります。しかしそれを読む、診断する専門医が1人もいません。賀茂圏域の中には1人もいません。

そういった中、今インターネットとか、そういった通信技術が進んでいる中、画像をそこに送って読んでもらうという考え方が頭に浮かぶんですが、実はこの賀茂圏域というのは光ファイバが来ていません。最も必要とするこういう田舎であるとか、離島のような地域に光ファイバがないんです。そういう点では一番簡単にできるのがそういった対策ではないか。光ファイバ網を整えることによって、医療以外のいろんな面でも大きな進歩があるのではないかとということが考えられますので、ぜひ県の力を含めまして、NTT等に働きかけて光ファイバの構築をお願いしたく、この場を借りまして発表させていただきました。どうもありがとうございました。

#### < 発言者 4 >

西伊豆町の発言者4です。よろしくお願いします。

私は2つの活動について話をしたいと思います。1つ目は、松崎町と西伊豆町でつくっている松崎地区更生保護女性会というのがあります。会員が124名で、なかなか私たちの活動というのは、物や形で表せられない、みんなになかなか理解してもらえないというところがあるんですけども、昨年度は幸いに日本更生保護女性連盟というところから、地域との連携・共同活動推進地区ということに推薦されまして、ミニ集会を開きながら、この会を「挨拶はとても大事だよ」、「挨拶が基本だよ」ということを目標に掲げまして活動をしてまいりました。

松崎地区には7つの分区があるんですけども、それぞれが地域性を生かした活動をして、全部で65回のミニ集会、それから参加者は1,900人にも及びました。先輩方が残してくれた、それを引き継いでいるんですけども、標語があるんですが、それにもやはり「挨拶が大事」ということがたくさんありました。

その標語をここの席に置いてあるんですけども、こういうしおりや爪楊枝で作りまして、それをミニ集会の時に配付しました。このリーフレットもあるんですけども、こ

れを分けて皆さんに読んでいただくと、「更生保護というのはこういう活動をしているんだ」ということがよく理解してもらえました。

それから、よく活動が更生保護というと堅い活動に見えますけれども、今は「川下から川上へ」という理念のもと、子育て支援から、それから高齢者への見守りという活動に、活動も大きく広がってきまして、またそれを自分たちも皆さんに見える活動をしていかなきゃいけないというのを実感しております。

公助という活動は、全く豪華客船でもないんですけれども、周りをゆっくりと見渡しながら行く手こぎボートのようなものだと思うんです。手こぎボートで周りにもし助けを求めているような人がいたら、自分の船に乗せてあげたり、そしてその方を浅瀬まで連れていったり、自分たちがその浅瀬の役目をするんだという自負を持っています。

この間の県の更生保護大会で50周年が行われたんですけれども、そのときに少年の家に対する建設資金の贈呈をしたんですけれども、皆さんの御理解と御協力のおかげで、「公助の茶」というものを売りまして、その手数料を差上げました。おかげで去年の2月に完成しまして、県知事さんもお出でいただきましてありがとうございました。現在更生保護施設への援助のために、その「公助の茶」の販売は続けております。

この少年の家ですけれども、こちらの方からも食事づくりや、それから建物内外の清掃活動にも参加しておりますけれども、矯正施設の駿府学園は、なかなか遠いということもありますので、お金ももちろんかかりますけれども、大勢で行くことができない、回数も何回も行くということができないので、とても残念に思っております。

高齢化率が高いこの西伊豆町においては、やっぱり保護司会やほかの団体と協力してこの見守りや声かけなどをして、地域に孤立する人がいないということを考えて活動していかなければいけないと思います。なかなか会員も年取ってきましたので、自分たちで将来を考えて、こういう活動を真剣に考えなければいけないなと思っております。

またもう1つの活動を報告いたしますと、この西伊豆町には伊豆半島でただ1つの消費者団体があります。ほかの市町がいろんな事情から消費者団体が潰れている中で、西伊豆町だけがこの会が続いているというのは、やっぱり行政の御理解があったからと、本当に感謝しております。静岡へ行くにも、ほかの講習へ行くにも、やっぱりお金がかかるものですから、いろいろ御協力いただいて出させていただいております。

消費者団体ですから、消費に関わるあらゆる学習をしているんですけれども、それをまた地域に帰りまして啓発活動をしているんですが、やっぱり海に面してる地域だものです

から、海から得るものはたくさんあります。海を大事にして、そのためにはやはり洗剤の使い過ぎとか、そういう環境に負荷を与えるようなことはしない。地球温暖化のためにも自分たちができることは何だろうかと考えたときに、ここに置いてありますけれども、アクリルたわしを作ったり、それから廃油石けんを作ったりして、皆さんに無料で配付しております。あとは出前講座なども開いて、皆さんが気をつけなければいけないということをお知らせしております。

そのほかにも、相変わらずおきている高齢者への振り込み詐欺などがありますけれども、それを被害防止のために自分たちはどうしたら皆さんに啓発できるかと考えたときに、寸劇をしたり、また実際に起こった事件を元に紙芝居をつくったりして、老人会や、それからデイサービス、サロンなどへ行って、それを啓発しておりますが、話をするだけよりも、目の前で紙芝居をするということが、皆さんによく理解していただけて、成功したんじゃないかなと思っています。

それからこの紙芝居には駐在所のおまわりさんにも実際に配役で出ていただきまして、皆さんが本当に真剣に聞く、その後のおまわりさんの話もよく理解していただけるということで、この紙芝居は隣町の松崎町のサロンの方にも貸し出しをしておりますので、また御利用していただきたいと思います。

この東部地区ですけれども、酸性雨の調査というのを毎年7月、8月にやっているんですけれども、今年度はpHが5.0、それで東部地区でも5.03という本当によくはない結果になりました。これは毎年、ちょっとずつ酸性が強くなるんですけれども、中国のPM2.5の問題もありますけれども、この西伊豆町は冬になると西風がとても強く吹きます。そういうところから、やっぱりこの酸性雨の問題は放っておけない問題だと思います。

あと、この地域でもし災害があった場合、私たちはこの海岸線1本だけの道路では、とても何かがあったときに道路が寸断されるということは、もう本当に予想されることです。私たちこの2つの団体も災害ボランティアコーディネーターという講習を受けまして、何かのときに手助けになればと思ってやりましたが、去年の7月の豪雨で、本当に教わったことがすぐに役立ったといったらおかしいですけれども、そういう講習がそのまま実地につながりました。

やっぱりどこの会でもそうですけれども、こういう会というのは、だんだん会員が高齢化してきまして、会員の減少もあるんですけれども、自分たちが何かこの若い人がどんな活動をしているんだと思って、魅力ある活動をしていかなければならないというのは

常に考えておりますが、やはり人数も減少していく地域ですので、なかなか人集めが大変です。

それから、ここから西伊豆の方から講習会とかいろんな勉強会とかで静岡の中央まで出かけていくというのはとても大変なことです。特に船原峠は冬になると凍りますし、イノシシやシカの心配もしなければいけませんので、いい道路をつくってもらいたいと思います。やはり道路ができれば、中央に行くにも自分たちでさっと行けるんですけども、あの山を越えていくというのは自信がない人がいっぱいいるものですから、その講習は行けないよと、なかなかせつかくのチャンスを逃すことになりますので、よろしく願いいたします。道路の整備は縦貫道だけで終わらないで、西伊豆の方にも広げてもらいたいと思います。以上、関わっている団体の取り組みをお話いたしました。ありがとうございました。

#### <県知事>

西伊豆を代表するお二人からお話を承りまして、発言者3さんと発言者4さん、健康・社会福祉に関わる大変貴重なお話をいただいたと思いますが、発言者3さんから、伊豆半島にはダイバーが年間150万人もの方がいらっしゃると。すごいことだと。いかに伊豆というのが海の恵みといいますか、海の魅力にあふれているかということでございます。そうしたダイバーが危険な目に遭ったときにはきっちり助ける、そういうシステムについても御紹介いただきまして、そういう仕事をしてくださっているまず発言者3さんに御礼を申し上げたいというふうに思う次第でございます。

それで賀茂地域、東部全体がそうなんですけれども、あるいは静岡県全体が医師不足ということで、私どもはどういうふうにしたらお医者様に来ていただけるかということで奨学金制度を設けまして、年間100人、今は120人になりまして、そしてそれをこの5年間、6年間で何と六百数十名になったんですよ。

仮に医学部を創りますと、浜松医大では大体100人くらいです、入学してこられる方は。だから4年たって400人くらいなんですね。今は100人ちょっと強ですけども。全国のお医者様で奨学金を差上げます、しかしその奨学金をもらった方はお医者様になるときにはこちらで働いてくださいと、こういうことなんですね。

これをバーチャルという言葉を使いまして、「バーチャル・メディカル・カレッジ」というふうに名付けまして、そのトップに昨年文化勲章をお取りになった先生になっていただ

いて、お医者様をそういう形で確保しております。

そうした形で今度静岡県の魅力が高まったものですから、何とそういうこちらで研修を受けたいという方が今年度 200 人以上ということになりまして、初めて 200 人の大台に乗ったと。少しずつですけれども、お医者様の数を増やしていると。それはなかなか実感できないかと存じます。

一方、こういう発言者 3 さんのような先生と、それからこちらの西伊豆病院、あるいは今井浜の病院だとかメディカルセンターというのが賀茂地域にございますけれども、昨日実は西伊豆の院長先生のところに行ってまいりまして、そうすると数年前は何と 3 人になったと。一月のうち 10 日ぐらいは宿直で、もう本当に大変だったとおっしゃっていましたが、本をお書きになってベストセラーになって、そしてその本に惹かれて来る人が出てきて、それから院長先生は世界のトップの英語の本を、大事なところを要約して、それをインターネットで流しておられて、そうするとそれにも惹かれて、それをまたまとめて本にされて、それがまたベストセラーになりまして、今、西伊豆病院はむちゃくちゃ注目されているんですよ。今 7 人いらして、年間で研修生が 30 名を超えていると言っていましたかね。

ともかく、少し安心できるようにはなったということですが、時間がかかります、お医者様を増やすというのは。しかし着実にそういうことをして、また発言者 3 さんや院長先生のような方が西伊豆、松崎にいてくださるので、やっぱりこういう先生を大事にするというのがやはり発言者 1 さんのような方がこちらに来られるときに、「病院、医療は大丈夫ですか」というのを「大丈夫です」ということを胸張って言わなくちゃいけないので、先生を大事にする、そういう環境は私どもも真剣に考えているところであり、少しずつ改良に向かっているということでもあります。

それからドクターヘリですけれども、ドクターヘリ、回数はものすごく多いわけですね。私はもうこちらの夜間ヘリのヘリポートは見つけたんです。ところが降りる場所がですね、夜は騒音規制があるんですよ。それで決まらないんです。

それから防災訓練をやりまして、この 1 市 5 町賀茂地域がまとまったのは初めてじゃないですか、ジオパークを除きますと。1 市 5 町一緒にやるというのは、実は県の担当者も大変だったようです。だから一緒にいろいろな行動するというのはなかなか難しいと。だけど災害は行政区ごとに来るのでなくて一気に来ますから、ですから今発言者 3 さんがおっしゃったように、自助というのが非常に重要で、この地域に合った防災訓練と、あるい

は避難ルート、避難場所、こうしたものについて日頃からやっている必要があるのです。

私どもも東海地震の話が出たのは、もう 35 年前のことです。それ以来、学校ほか、いわゆる耐震性は進んでいます。ただ南海トラフの巨大地震のようなものは、今まで静岡県を襲ったことはありませんが、1,000 年、1,500 年に 1 回ぐらいは来るだろうと。それはある種とめようがないので、逃げる以外にないということなんですよ。南海トラフはマグニチュード 9 です。東海地震というのはマグニチュード 8 なんです。

日本人の大半が海岸線に住んでいますから、逃げる以外にないということでごさいます。できる限り、来ることは予想もできないし、止めることもできませんので、災害を減らすための減災の努力をしなければならないと。その減災の最大のポイントが防災訓練で、どこに逃げるかと。第一波が全部を持っていくわけじゃありません。第一波が来て、第二波までの間に高いところに逃げるということで、まずは自分を助けると。

昨日院長先生に聞いたら、奥さんにサイレンが鳴ったと、津波が来ると、「おまえは山に逃げろ、自分は病院に行く」と、「そのときが生き別れだ」と、常に言い聞かせていると言うんですよ。だからもう行き場所を、津波のサイレンが鳴ったら、警報が鳴ったら、さつと奥様は山に逃げるんですって。先生はちゃんと病院に来られるんですって。屋上の方に行かれるらしい。ともかくそういう職業倫理というのは見上げたものだなと。だからそういうところに惹かれて昨日新潟から来ている二人の若い青年医師にお目にかかりましたけれども、そういう立派な先生がいらっしゃるんですね。

ですから皆さんも自分たちがどういうふうに逃げるか、それを日頃から、少なくともどこに逃げるかということぐらいは皆さんに言うておくと、それぞれそこを探せば会えるということになりますので、そうしていただくということでもあります。

それから成人病の話がありますが、食べ過ぎることと、飲み過ぎること。もう 1 つ飲み過ぎないものがある。何かというとお茶なんです。お茶を飲まないでしょう。子供のときから静岡のお茶を飲むと。しかしお茶よりいいものが見つかりました。桑の葉です。桑を「そう」と読みまして、「そうば」と読む。

さっき見てきましたよ。耕作放棄地を 3 反ぐらい桑の葉を栽培されて、挿し木でできるんですって。それをお茶のように飲む。さっき飲んできました。私、温かいのと冷たいのと 2 杯飲みましたけれども、両方ともおいしかった。そばにもできる、パンにもできる、うどんにもできる。これがもう何にでも全部に効くという。幾ら飲んでもこれを飲んでいれば大丈夫だと。それがまたミルクとうまく合うんですって。

ですからお茶を飲まなくても桑葉茶（そうばちゃ）、桑の葉っぱの茶を飲んでいけば、これ緑ですし、非常に生き生きとした感じで、もともと松崎の桑は有名でしょう。ですから桑の復活を期待したいと思うんですが、「ぜひつくってよし、食してよしの松崎の桑葉ファームの桑づくしかな」とかという歌があるじゃないですか。ともかく桑づくしです。もうデザートも出ましたからね、これで成人病を抑えられると。

あとは光ファイバの話はちょっとこれ、確かに私ども気になっておりまして、御指摘のとおりですよ。これはちょっと考えないといかんということで、今日は町長さんお二人来ておられるので、何としてでも早くシステムを松崎に導入しないといけないと、賀茂地域に導入しないといけないと思っております。

それから発言者4さん、本当に立派な仕事をされておりまして、これはどういう精神かという、ここに皇后陛下の歌がございますでしょう。「傷つきし心の子等を抱きよする母ともなりていつくしまなむ」と。いろんなことで心が傷ついているから悪いことをする。その子供をお母さんのような気持ちで抱きしめてあげるというそういう会なんですね。

ですから、そういう子供たちがしっかりと社会に復帰できるようになさっておられて、そういう施設がありまして、この間そこに御寄附を賜って、少年の家を立派なものを作りました。県産材を使って作ったと。そのときは本当に御寄附をありがとうございました。

そして今や消費者団体もやっておられるということで、この賀茂地域の女性というのは大したものだなと。発言者4さん、先ほどしっかりした話をされて、私はただただ感心して聞いていたわけでございます。

ただ、道をつくれと言われて、ともかく今ようやく修善寺のところまで、これも前倒しです。今年の2月11日に沼津のインターからすっと来れるようになりました。ただ天城をどう抜けるか。また天城を抜けた後、とりあえず下田まで持ってこようと。しかしながらそれは終点ではないと。国道135号、136号だけだと、どうしても、もし海岸線が寸断されると支障を来しますので、海から空から、しかし一方きっちりとそういう道がないと講習会に行ったりすることもできないということでありますから、何としてでも賀茂地域に来やすいようにすると。またお互いにネットワークを組みやすいようにすると。そうしたことが1市5町に分かれているものをまとめ上げると。

実は東部全体というか、伊豆半島全体は一見たくさん市町があるので大きいようですけども、浜松市より面積小さいんですよ。こちらはたくさん、賀茂地域だけでも1市5町ありますから、そういうふうになっているのは交通の便が悪いからだというのが1つあ

と思います。ですからやっぱりまとまる必要があると。

西伊豆と松崎はどちらも景色がきれいだし、どちらも飯はおいしいし、どちらも人柄はいいし、ただ行政区は違うということなんです、なるべくできることから、花の会だとか、あるいは食の文化だとか、いろいろなネットワークをできることから1つにしていくと。

昨日ここで、ちょっと話は変わりますが、青年たち、生徒会長さんに今世界のジオパークになるということでサイエンスクラブというのを創られて、日本のジオパーク委員会が来られたときに説明されているんです。英語のパンフレットも作っているんですよ。感心しまして、校長もいらして、「諸君は高校卒業するまでに世界を見る必要がある」と、「諸君はパスポートを持っているか」と言ったら、十数名の生徒会の役員の中で1人だけ女の子が持っていましたけれども、だれも持っていない。ですからまずは生徒会のこれからの運動として、松崎高校にいるものは全員パスポートをまず持つと。そうすると世界に行く通行証ですから。

松崎の高校を出た子はすべて海外に行くためのパスポートを持って、かつ海外に行ったことがあるというふうになるべく早くしたらどうかと言ったら、そしたら生徒会としてそれを決めていただいて、そして校長に談判に及んで、校長は町長に談判に及んで、そして松崎町長は私に談判に及んで、まずは松崎、西伊豆の高校を出た子は皆全員がもう海外経験を持っているというふうにする。

そういうふうなこともありまして、ですからこういう世界に通ずるところであるということを知っていただく。そういうことにもやっぱり道を、ちょっと急に変わりましたけれども、とにかく道がないというのが一体感がないということがわかっておりまして、それを補うために、しかし心は松崎、西伊豆の道は世界に通じているんだと、経験はそういう経験を持っていると、こういう井の中の蛙でなくて、世界を知っていると。

世界で最も美しい半島であるということは間違いありません。ですからそれを海外に行って、自分たちのよさを知るというこういうきっかけをすれば、何でもかんでも立派な女性が生まれるのかという理由もわかってくるというふうに思うわけです。ありがとうございました。

<発言者5>

こんにちは、西伊豆町の発言者5と申します。今回は仕事をしていて感じたことと、地

域の活動をして感じたことをお話しさせていただきます。

初めに仕事のことですが、私は西伊豆の実家で家業である宿泊業のペットと泊まれる宿を12年、そして昨年からは堂ヶ島で飲食店を開店しました。ちなみにその食堂でもペット同伴で食事できるスペースを設けました。

そして実際感じることは、ペット連れの観光客が多いことです。統計では15歳以下のお子さんを持つ家庭より、ペットを飼っている家庭の方が多という統計もあります。そしてペット連れの旅行者は、子育てが終わり、経済的にも余裕のある方が多いというのが実感であります。あとペット連れで車まで行くとすると、関東圏からですと伊豆などはちょうどいい距離の観光地だということです。

西伊豆にはペット関連の業態はまだまだ少ない少数派なんですけど、実感できるのが、以前からも言われていますが、ペット産業はまだまだ成長産業なのではないかなと思います。少しでも同伴できる場所が増えたり、公共の施設でも少しリード、綱をつける場所など、ちょっとした気遣いでいいので、ペット連れに優しい観光地になればいいなと思っています。

あと、地域活動についてなんですけど、私は商売をしているので観光協会や商工会などに入り、いろいろなことを勉強させてもらいながら、イベントの企画やパンフレットづくりなど行っているのですが、それを作っていて少し疑問を持つこともあります。それは行政区で分かれているのでしょうがないことなのかもしれないんですが、旅行者は伊豆に旅行に来ているのに、各町の単位でしかパンフレットや紹介がなかったりと、旅行者にちょっと優しくないんじゃないかなと。

何か町のためにしたい志があるのに、観光を扱っている団体は、商業主でなければ入れなかったり、あと町には商業主以外の町民団体があって、皆さんすごく頑張っているんですけど、ただ若い世代が先頭に立って自由に活動できて、地元のことを大好きだけど、何をしたら、どういったものにしたらいいのかわからない若者や町民の方、あと地域を越えた活動をしたい人など、受け皿になるような団体が少ないように思い、そんなことを友人と話して、フットワークが軽く、地域も越え、自分たちがまず動く、そんな団体を創ろうと話合って、2年前の9月に西伊豆ふるさとおこし隊という隊を発足しました。

初め勢いで立ち上げたのはいいんですが、やることは決まっておらず、しかしメンバーで話し合い、みんなが参加できて、観光客が呼べることをしようということになって、キャンドルナイトをしようということになりました。そのときは平成24年だったんですが、

いつやろうかということになって、平成 24 年の 12 月、語呂が西伊豆だったので、そしてどうせなら一番の日に、24 年の 12 月 1 日にしようということになったんですが、そのときはメンバーは 6 名、開催は 3 カ月後という結構無茶な計画がスタートして始まりました。

初め有志で始めたので、資金も何もなかったのですが、資金集めと人のつながりをつくろうと思って、そのときサッカーの世界カップの予選中だったので、パブリックビューイングをして資金集めをして、集まったその人に趣旨を説明して、メンバーも少し増やすことができました。

キャンドルはペットボトルを使って行うので、ペットボトル集めも同時にスタートしました。本数は 2,000 本集めようということになって、フェイスブックや口コミとか張り紙などをして、町内外の方に協力してもらい、何とか集めることができました。

キャンドルナイトでは毎回テーマを決めて、キャンドルで絵や文字を書くのですが、1 回目はアイ・ラブ・伊豆、2 回目はそのとき富士山が世界遺産になりましたので、それを記念して富士山の絵とローソクの数も増えて 3,776 本、標高と同じだけ立てました。3 回目は今年の 9 月に行ったんですが、ジオパーク世界認定を願いまして、ジオをテーマに行いました。

3 年目を終えて、よかったことや課題などがいろいろ出てきて、よかったことはたくさんあるんですが、抜粋して言いますと、自分たちのメンバー以外にもボランティアスタッフを募って協力してもらったんですが、その方たちが少し集まってくれたことです。あと一番初めのときに、そういったやる気がある人が集まれば 3 カ月でもイベントは実行できるんだなということが少し自信になりました。

課題としては、いいことと被るんですが、まだまだスタッフの数が足りないということと、資金面が少ないということです。あとは地域のお客さんは結構来てくれているんですが、まだまだ観光客までいっていないのが現状です。このまま自己満足で終わらないイベントにしたいので、いろいろ趣旨を説明しながら、ほかの団体とも連携して、数日間は続けていけるようなイベントにしていきたいです。

いろいろ活動してみて思うのは、自分たちの地域なので、まずは行政などに頼らず自分たちで動き、困ったときには各団体皆さんすばらしい活動をしていますので、団体の利害関係にとらわれず、スピード感を持って「オール西伊豆」で地域活性化に取り組んでいかなければいけないんじゃないかと思っています。

自分が要望というか思うのは、松崎・西伊豆の町長もいらっしゃいますので、松崎町の

若者の交流会や人材育成の塾みたいなものを開いていただければ、これからの1世代、2世代後のこの西伊豆地域がすばらしくなっていくのではないかなと思っております。ありがとうございます。

< 発言者 6 >

皆さん、こんにちは。発言者6です。よろしくお願いします。

私たちも棚田サミットに間に合うように2010年10月10日に蔵らを興しました。あれから5年です。そのときに65歳でした、平均年齢が、今はあと5を足しますと、もう今年は71歳になるそうです。その前の5年も、私小さなお店でものづくり介護として高齢者に手芸を教えたり、教えられたりしながら、5年過ごしておりました。それを入れるともう10年活動しておりますが、やっと念願が叶って私たちの夢が叶えられた10年目です。これからの活動をぜひ皆さんも見たいと思います。

それで私たち平均年齢70歳ですけども、みんな元気なんです。5年前より今の方が何か元気ではつつつしているような気がします。今応援にみんな来ています。皆さん、ありがとうございます。

それで私たち高齢者がやっているだけではないかと思ひ、理念をきちんと3つ作りました。それは1つ目は、親の代からずっと町にお世話になっていきますので、少しでも恩返ししたいと思ひ、町おこしのお手伝いを少しでもできたらという気持ちが一番ありました。

2番目は、高齢者が生き生きと、何しろ高齢者が今超々高齢者時代ですので、その高齢者に何か生きがい、自分が高齢者になるとわかるんですね。「まだ何かできるな」という気持ちを皆さんの才能を引き出して、何かできることで元気になっていただきたい。そして高齢者の働き場をつくりたい。

今現在、私のところの会員は一応23名ですけど、作品を作っている人を入れると100人近いんです。その方たちがみんな元気で蔵らをやっている者、できたものを持って来る楽しみ、また働きに、大体11~12名でローテーションを組んで、1日7名から8名が働いております。

ですから家庭料理をしっかりとおうちでやってきた、もう50年もやってきた人が、一生懸命に煮物や、揚げ物や、和え物や、みんな特技で参加しております。ですから昨日いらしたお客様も「随分腕を上げたね」なんて言われたんですけど、そういう言葉がとてもう

れしくて、「頑張ってます」とか言うんですけど、それで3つ目が、今県でも国でも奨励しております居場所づくりです。

これは引きこもりにならないように、一人暮らしの方が気軽に来て、ものづくりで元気になっていただきたいという気持ちで、私も今まで引き出しに詰めてきたものをみんな1つずつ開いて、みんなで楽しくものづくりをしたいと思っております。そういうこと、この3つが私たちの目標であり夢だったんですけど、何とか今形になってきたと思います。

それで私のお店は、今、テレビの影響でちょっと食堂になってしまったんですけど、本当の気持ちはさっきの3つの目標ですね。ですから食堂としては月水土日、4日間にしました。これはなぜかというと、月曜日と水曜日というのは、若者がやっている食堂とかレストランがお休みが多いんです。そのときに私たちが頑張って、観光でいらした方がどこも休みで困ったということのないように、月曜日と水曜日はやっております。あと土日は観光客の方たち、また家族で見える方が多いものですから、これは外せないと思ひまして、週4日。

それでおかげさまで今研修視察というのがとても多いです。今日も午前中沼津の方の民生委員の方たちがいらしたんですけど、火曜日と金曜日は研修視察の方のお食事と、それを終わりましたら火曜日は高齢者のものづくり介護、そして金曜日の午後は体験教室ということで、すべての日を埋めようと思っております。

それで私は「4つのチャ」というので、「チャンス」があったら、それを大事にして、それで「チャレンジ」しよう。それでうちも5年目なので、ちょっとマンネリになったらちょっと「チェンジ」しようということで、チェンジしたんですね。それがとてもうまくチェンジできまして、マスコミや新聞、またテレビのおかげで本当に自分たちは上手にチェンジできたなと思ひて満足しております。それで最後に、チャンスがあったらチャレンジして、それでうちは女性が働いていますので、おばあちゃんでもちょっと「チャーミング」でいこうということで、みんないつもにこにこ元気に頑張っております。そんなことで思っております。

それで今体験教室のメニューとしては、体操教室が一番人気なんです。それと花の教室、今度バラをやります。それからちりめん細工、おひな様になったらおひな様を作ろうとか、それから今は寒くなってきましたので手編み教室では靴下を編んでいます。そんなことでみんなが生きがいづくりになるかなと思ひて、本当に何というのかしら、普通のことで頑張っていきたいと思ひています。

高齢者のものづくりなんですけど、それは4週ありますので、1週目は本当に何もできなくても、お話ししてお茶飲んで、何かちょっと1つ作っていこうかなぐらいでいいかなと。4週目ぐらいの人はもう商品ができるような人でいいと思うんですね。そしたらうちのお店で売ってあげるといような感じで、そういう1週、2週、3週、4週と分けて、できない人とできる人が一緒ではちょっとかわいそうなので、そんなふうやっていこうかなと思っております。

それと私たちは今、今朝のニュースで認知症と認知症予備軍が862万人いるというニュースを聞きました。それで今度は血液検査でその認知症が早期発見できる。そうしましたら早期発見だったら治るんだそうで、認知症の薬はないわけですから、私は社会福祉協議会で14年従事させていただいたんですけど、それでずっとものづくり介護を奨励してきました。そのものづくり介護で本当にうちの100人近い人たちはみんな元気なのでいいかなと思っておりますが、皆さんいかがでしょうか。

男の方もいっぱいやることがあると思います。私は70からがプラチナ時代だと思っていますので、これからまだ年なんて言わないで頑張っていきますので、どうぞよろしく願いいたします。この辺で失礼します。

#### <県知事>

西伊豆の発言者5さんと発言者6さん、それぞれ食に関わることで有名ではありますが、特に発言者5さんの場合、30代で優しいお気持ちと、それから正確な認識をお持ちの上で、この漁師のカフェを始められたというふうに思います。今15歳の子供さんの数よりも、ペットを持っている人の数の方が多いというのは、これはなかなかの目のつけどころですね。3.11の後にペットを持っている人をどのように宿屋にお泊めするかということが問題になりましたけれども、静岡の首都圏のすぐ近くでペットオーケーといっているところは、大きな旅館だとか、大きなホテルだと、それは基本的に難しいですね。

そうしたニッチを上手に利用されて、私も実は松崎に泊めていただいたことがあって、ペットを連れていきまして、そうすると似たような人たちがいっぱいいますので、とても楽しかったですが、今度はぜひ発言者5さんのところへと思っているんですが、ですから実際はこれから伸びていくともおっしゃっているので、ひょっとすると大化けする可能性があるというふうに思います。

それからこの西伊豆ふるさとおこし隊長としてやっておられて、キャンドルナイトとい

うんですか、非常にしゃれてますね。非常にセンスのいいものです。これがまだそれほどよく知られてないというのは不思議なくらいです。素晴らしいですよ。必ずこれも大化けするというふうに思っております、もともとこういう青年が出てくるのは、やはり夕日が美しいということで売ってますけれども、本当に美しいところなんです。

ですから心だてが美しい、それからまた美しい景色を見ているので、美しいものをつくることに長けている。そういう心の形は自然の形が育んでいくので、これを上手に掘り起こしていくと、発言者5さんのようなアイデアと実力のある方たちが出てくるんじゃないかなと、こういうふうに思って、ものすごく期待していますよ。

それから発言者6さん、私はまだ60歳、同い年ぐらいかと思っていたんですけども、平均年齢が70前後になったということで驚いておりますけれども、ともあれ、あそこは素晴らしいですね。行ったら明るいということがあります。それからもちろんおいしいということがあります。しかし基本的に高齢者の方たちのためになさったということがいいですよ。

そして、しかも厚生労働省が平均寿命よりも健康で長生きしている健康寿命が大事だということを言う前に、どういうふうにしたら高齢者が健康で長生きできるかということ为先駆的になさっておられて、それで厚生労働省が世界保健機構の規定に従って、日本の47都道府県を調べたら、日本の中で静岡県が健康寿命が1番だったんですが、そのときにこういう蔵らのような試みが素晴らしいというので、何か賞をもらわれたんじゃないですか。

<発言者6> はい、もらいました。

<県知事>

国の賞をもらわれているんですよ。ですからもうこれは地方レベルじゃなくて国レベルの試みだということなんです。

しかもチャンス、チャレンジ、そしてマンネリになればチェンジというこのダイナミズム、素晴らしいですよ。今は月水土日になると、しかも若者と競合しないようにと、そういう人がいる限り、この町は大丈夫。

それから若者のことをお考えになっているだけでなく、その隣に今度くわやができたでしょう。そしてそのお隣は久遠さんですよ。今日は私ども打ち合わせを兼ねて食事を久遠さんのお弁当をいただいたんですよ。もう全部「く」つながりですよ。蔵らさん、

くわやさん、それから久遠さん、何かもう1つあるらしいですが。

<発言者6> おそばやさんができまして、鞍馬さんという。

<県知事>

鞍馬さんという、もうこれは道路の名前もそういうふうになるんじゃないですか。

<発言者6> くら通りとか。

<県知事>

そういうことになるんじゃないかと思います。今日はくわやさんの中にも入ったんですが、やはりこの古民家を上手に改築されたとか修繕されて、依田勉三さんのおじきさんがいらっしゃるところですね、蔵らは。そこを上手に活用されて、ですからその中に入ること自体が、都会の人や初めての人たち、あるいは近所の人でも、懐かしいとか、素敵ということで、やっぱり古いものも持っている力というのはすごいと思いますが、それが複数になってきましたので、これから生きてくるんじゃないかというふうに思います。

先ほど発言者6さんから海藻を上手に使った美術品みたいなものを見せていただいたんですよ。海藻は先ほど、これも発言者6さんから教わったんですけども、伊豆半島には400もの違う種類の海藻があるそうです。これは海の森だと。ここに海の森が豊かだからいろいろな魚介類が採れるということで、そうしたものは単に食べるだけではなくて、実は美術にも使えるということなんですね。

そしてまた海藻は成人病にもいいし、認知症にも効くというふうなことで、本当に健康で長生きをするということが人類の最高の理想ですけども、そうした試みのモデルのケースをなさっておられて、そして発言者6さんのグループの23人、実際は100人の方が関係しておられるということで、大きな波になっていると。

だれが元気にしたのかというと、話聞いてみたら、蔵らさんに負けないようにというわけで、男女共同参画のモデルみたいなもので、そういうあの道が非常に味のある道になってきたというふうに思っております、これからの工夫が全国から注目されて、いろいろな情報発信源になっていくに違いないというふうに確信しておりますので、お仲間の方たち、どうぞ自信を持ってこれからも続けてくださるようお願いをいたします。

<発言者 1>

私東京から移住してきて半年ですが、そうですね、移住するには住むところが必要です。私任期が1年で、最長3年まで地域おこし協力隊ができるんですが、その後の家を、今住んでいるところは次の隊員に引き継がなきゃいけないので、新しい家を探さなきゃいけない。

そしてまたこの3年の間に自分たちの生業をつくり出したり、見つけたりしていかないといけないということがあります。ぜひそういった空き家対策じゃないですけども、移住しやすいような、そういった状況があると、東京に住んでいる、今地域に入りたいという若者が結構多いと思います。今多様な視点を持った若者が増えていると思いますので、そういった方々を松崎町、また西伊豆町に呼ぶためには、その辺の空き家対策とか、そういったところがしっかりしていると、ぐっと距離が近くなると思いますので、私も頑張りますし、しっかりやっていただけるとありがたいなと思いますし、町の皆さんもぜひ、空き家っていろいろ見るとあるんですけど、なかなか貸し出させるということは少ないと思います。なので、そういったところも皆さんの御協力がきつと必要だと思いますので、みんなで進めていただけたらいいなと思っています。

<県知事>

そうですね、地域おこし協力隊というのがありまして、それでお越しいただいているんですね。これ期限がありますから、せっかくこういうふうにして、こちらで可能ならばもっといたいという、明らかにそういう気持ちで半年でなられたというのはありがたいじゃないですか。ですからぜひ工夫をします。

自分の家を持つとなれば大変お金がかかりますね。ですから、借家でいいと思いますよ。そして高くかからない借家、そしてまた追い出されることの心配のない借家ということが大事でありまして、したがって家主が準公共的なところでやるのがいいと。あるいは空き地があって、あるいは空き家群があって、そこを公共がとりあえずお借りして又貸しすると。そういたしますと、確実に地代が入ってくるので、そして我々が又貸しする場合には、その我々に掛かるであろう税金の若干上乗せ分を、あるいはほとんど同じ分をお入りになる方に負担していただければ、その経済は回るということでもありますので、今大きく人口が減少していますので、そういうせっかくある不動産を活用するというのはとても大切な

ことだと思えます。

仮に、これは協力をいただいているんですけれども、行き場のなくなった人をぜひ受け入れてくれというふうには、例えば富士山が噴火したといたしますと、あちらの方たちがこちらに逃げてくることになってきます。そういう人たちの住まいをどうするかというのをあわせて考えておくということも大切でしょう。ですからそういう場合のことも考えて、安心して住んでいただけるようなそういう場所はやっぱり確保を一緒にしたいと。

恐らく西伊豆でも似たような地域協力隊というのが、また入ってこられる可能性がありますので、もう1人入ってこられるということで、先ほど町長さんからも聞いたんですけれども、希望が多いですよ。住まい、それからもう1つは仕事ですね。仕事については、都会から来られるので、ですから大地に近い仕事がいいですよ。だからいきなり農業、あるいは漁業といかないのが、加工するとか、あるいは売るとか、食品加工とか、あるいは蔵さん、あるいは漁師カフェさんのような、そういうところで働くとかいう食に関わる、観光に関わるところで一番伸びが大きいのは食材です。

これからもう和食が世界のユネスコの無形文化遺産になりました。これは食材が多いところが一番日本で条件がいいですよ。先ほど発言者1さんは食糧自給率のことを言われたでしょう。あれはカロリーベースなんですね。カロリーベースですと、日本は39%ですけど、静岡県は18%です。すごく低いんですよ。

私はこれおかしいなと思っていたんですよ。日本は基本的にカロリー過多なんです。カロリー過多で、カロリーベースの自給率を上げるということは、農業県にもっと農業しろということですよ。

しかし、本当にカロリーが食にとって一番大事かと。違うはずですよ。種類でしょう。いかにバランスよく食べるか。それからカロリーでいえば、海藻だとかワサビだとか、あるいはお茶だとか、あれはカロリーありますか。ないですよ。カロリーの無いものだけでも、食材として極めて重要です。お茶やワサビなんていうのはカロリーベースでいくと、もうほとんど無いに等しいんですよ。それ抜きに日本の食は成り立ちませんから、ですから私は食材の数を数えたんです。

そしたら農産物が339あったわけですよ。それは日本一だったわけですよ。食材の数が日本一で、海産物は平成23年度の商品になっている海産物で100種類です。そうすると439です。断トツで1位なんですよ。だから食材の王国なんですね。そして今北海道とか日本海側は冬で閉ざされていますけれども、こちら見てくださいませ。こんなにきれいな天気

で、ミカンができたり、イチゴができたりして、まるでもう桃源郷です。そういうところ  
でございますので、ここは最高に食にとっては重要で、食については年がら年中提供でき  
るものがあると。毎日のことですから、しかも観光県ですから、世界ジオパークになるか  
ら、食とかそれからお花ですね、園芸、こうしたものはうちの農業研究所もございますし、  
そういうところと連携しながらやっていけばいい。

特に私は桑は大化けするんじゃないかと。今日は桑づくしで、この間はヤーコンを下田  
高校南伊豆分校の子たちが商品にしました。これは見事なもので知事賞を差上げたんで  
すが、そういうことに関心のある青年たちも育っていますので、これは農産物とか食材だ  
けで見ると、なるほど人口3%かもしれないけれども、加工品に携わっている人の数にす  
ると、恐らく自動車産業全体の数と変わらないと思います。なぜかという、合計額が自  
動車産業で大体9兆円ぐらいだと思いますけれども、年間の生産額が、食品でも9兆円ぐ  
らいですから、ものすごい産業なんですよ。

これを今度は日本は食材を世界に輸出して3兆円産業にするというふうに言っていらっ  
しゃるでしょう。ですから食材に関わるものは右上がりなんです。だから、農業だけ見て  
いるんじゃなくて、農産加工品、加工食品、我々は新商品セレクションというふうにして、  
認定していますけれども、いろいろな工夫を今日は桑の葉だけでも、もうケーキから、そ  
ばから、うどんから、それからもちろん飲み物から、それにデザートから、豆腐から、も  
う何もかにも全部入って、色がきれいだし、健康にいいというんです。

#### <傍聴者1>

私は松崎町の傍聴者1です。いろんな食材があっても、種類があっておいしいだろうけ  
どね、ここは人が入ってこないんですよ。私はもうここで松崎町へ来て55年経ちますよ。  
私は函館から来ました、自動車も電車もフェリーでも何でもありますから。ここの土地に來  
たときには、道路をつくるのに道路が舗装されると、車が滑ったように走るから音が出な  
いと。

そして、ここは道路が狭いでしょう。車で来たらひどい道路だなんて。こんな車がすれ  
違わないところが、いまだに国道として残っているのかと。いまだにまだ道路もできてい  
ない。北海道行くと、もう新幹線でも何でもできちゃっているんですよ。もう終点はでき  
ているし、電車の駅になるという場所にはもう町ができていますよ。そのくらい発展が違  
うんですよ。

だけど、ここは何言ったって、私は50年頃から講演に行ったときに、道路を作ってくれ、幹線道路をちゃんと作ってくれなきゃ、今のうちに作らなきゃだめだと。

そしてそのころ四国へ旅行へ行ったときには、四国では橋をかけると言っていました。四国へ橋を渡して、完成させて、全部陸地続きにしようという、そういうスローガンになっている。それがもうこっちが幹線道路ができないうちに、向こうはもう瀬戸内海に全部橋が渡ったじゃないですか。いまだに道路ができない。

そしてお客さんを呼んでも、こっちに来ると道路がないから、ちょっとすると混み合っ、渋滞して、それで道も細いものだから、道路のいい新潟の方から来るお客さんは来たくない。こんな恐ろしい道路は、カーブも多いし、道は狭い。北海道行ったら、もうわからないぐらいに道路ができていますよ。人の通らない、それこそ熊しか通らないようなところに道路をつくったというぐらいに。ここはもう少し力を入れて道路をつくってもらいたいと思います。浜松、静岡の向こうにはどどんいい道路をつくっているけれども、伊豆は昔から、いまだに昔からの道路ですよ。そういうことをもう少し考えてつくらないと、こっちの食材を使って、お客さんをもてなしたくてもできないんですよ。お客さんが来ないんですよ。お客が来るように、もう少しいい道路を。

<傍聴者2>

裾野市から参りました傍聴者2と申します。「平太さんと語ろう」はホームページで知りました。裾野市から2時間以上かかりました。ちょうど3年前、「平太さんと語ろう」に来られたときに、フロアーから発言させていただきました。3つお願いしました。1つが、県東部地域に発達障害者の支援センターをつくってもらえないか。それから障害児者の支援をするための受診経費などをもう少し緩和してもらいたい。それからファルマバレー構想で医学部を静岡県東部に誘致して、その中で発達障害を研究する機関をつくってもらいたいというお願いをしました。

そのうちの2つを実現していただきました。発達障害者支援センターが沼津にできました。もう1つが発達管理責任者の受診経費も可能。

ヘルプマークとヘルプカードというものがあります。これを静岡でやってくれないかなというふうに思いまして、すみません、県の方に要望を出しましたところ、ヘルプカードやそれに類するものは都道府県単位で導入していった場合は、全国でやるのが望ましいと考えておりますのでということで回答をいただいております。今回、ぜひこのあたりのこ

とを御検討していただきたいなと思います。ぜひよろしく願いいたします。ありがとうございました。

<県知事>

どうも伊豆の問題は道の問題ですね。それはよくわかっておりまして、なかなかできなくて、本当に申しわけないと思っておりますが、国道135号、136号だけでは具合が悪いので、伊豆縦貫自動車道を上から延ばしてくるということで、何でこんなに遅いんだと言われて、本当にそう思います。

これは国が予算を通してくださるので、期成同盟をつくって、私会長なものですから、この間もそこに行ってぜひ予算をつけてくださいと。ただ私が知事になりましてから予算がつけられなかったり、あるいは予定を先延ばししたことはないんですね。先ほども伊豆縦貫自動車道は沼津から、この間函南と三島の間、塚本とつながりまして、それで一気に修善寺まで、沼津から30分で来れるようになったんですね。恐らく裾野から来られた方も、それを通して来られたんじゃないかと思うんですが、今度天城を抜くというのがなかなか大変で、そして河津から下田の間を今やっているんですよ。

何でこんなに、もう50年も前に来たのにできないだと言われたら、本当に私も一緒に言いたいぐらいです。しかしそういう状況でございまして、作ってやるといいながら作ってないとかということじゃなくて、作ってくださいというふうに、大きなお金と工事がかかりますので、国土交通省にお願いをしているということなんですね。

さらに言えば、決して先送りしないようにはしているんですよ。浜松だって、三遠南信というのはなかなか遅々として進まないんです。ですから浜北より北に天竜から佐久間に行くともものすごく不便です。救急車が交差できないんですよ。そういうところが水窪というところにもあります。だから下を見ればきりがありませんが、上を見てもきりが無いと。

静岡県は本当に横に縦に長いので、あるいは井川の奥の方も大変に不便です。1回土砂崩れがあって、それが通れないので、ものすごい遠回りをしている。ですから道路というのがどうしても大都市間をつなぐためにつくられてきたという経緯がありまして、こういう素晴らしいところにそう簡単に来れないというのは誠に残念ですが、しかし裾野から来てくれたというのはうれしいじゃないですか。

ただし、ちゃんと目的があつて来た。もう1つ持ってこられたわけですね。この件につきまして今何かお持ちなので、それを見せていただきまして、後から正確に、いいお話

のようなので、それを活用していただけるように検討させてください。以上でございます。

<傍聴者3>

傍聴者3と申します。先ほど道の駅の件についてお話があったんですけど、前に国土交通省が出している道の駅の再生の案を見せていただいたときに、省庁の垣根を越えて道の駅を再生してまちを活性化するお手伝いをするという案がありました。そのときにやっぱり松崎町は道の駅もありますし、内容を見ると地域の活性化とか、グリーンツーリズムの推進、その他情報の発信基地としての道の駅というのがすごく重要だということを書いてあったんですけども、その中で、やはり今までみたいに補助金をもらって、行政主導の形で道の駅を再生することはなかなか難しいのではないかと思うんです。

その中で例えば、最近ですと、県道を有志の方が草を刈ってきれいにしたりとか、あと発言者2さんたちがこのようにたくさん花をたくさん生けていただいて、各所に飾ってくれて、松崎をきれいにしてくれるとか、そういう活動をしている人がたくさんいて、もしそういう人たちに声をかけていただければ、道の駅を大切にするとところにすごく力になるのではないかというふうに思っているんです。

やっぱり地域の人間が地域をよくするために、自分たちの力で何とかしようという力は松崎にはあるので、それが1つの道の駅を再生するための力になると思っているんですけど、そうすると今の状態ですと、地域の住民がどういうふうな形で行政に関わっていくかというのが意外とわからない部分があるし、その役割分担というのがなかなかできていないと思うんですね。その中で地域の人間の役割と行政の役割と、それから県の役割みたいなのが、どのような形で協働することができるのかというのを少しお伺いしたいと思いません。

<県知事>

これはもう誠にありがたい御発言です。やりたい人がいると、道の駅の重要性はよく御存じだと、あとはそのマッチングだけだということなわけですね。もうそれは今日は町長さんもいらっしゃるしますので、要するにつなぐ仕事をして、松崎の方たちが、いろんなグループの方がそれぞれ分担しながら、道の駅を支えていこうということなので、これはもう町政の仕事ですね。できる限りの調整をして、これはもう最後にすばらしいさすが地元の方たちですね。解決できそうですから、ありがとうございました。